

厚生労働科学研究費補助金
 (医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)
 総括研究報告書

血液製剤の安定確保のための需給量の将来予測手法の開発に関する研究

主任研究者 高野 正義 (財)血液製剤調査機構専務理事

研究要旨

血液製剤の将来的な使用量を予測する事は、安全な血液製剤の安定供給のために極めて重要である。しかし、どのような疾患で血液製剤がどの程度使用されているかについての現状も正確には把握されていないため、将来予測を医療統計データを用いる事により行うことは不可能である。加えて、血液製剤の使用状況は、人口構成や疾病構造、診療報酬制度や法令・ガイドラインの内容、医療行為の標準化などの諸要因により容易に変わり得るものである。

本研究はこうした状況下で、血液製剤の使用量の将来予測を行うために、過去の使用量の推移を調査するとともに、将来予測で用いられている“デルファイ法”を用いて、その手法の妥当性や将来的な手法の展開の余地を探るために試行的に実施するものである。

分担研究者	所属機関 及び職名
河原 和夫	東京医科歯科大学大学院 政策科学分野教授
田所 憲治	日本赤十字社血液事業本部 経営会議総括委員
高橋 孝喜	東京大学附属病院 輸血部教授
松崎 浩史	松山赤十字病院 心臓血管外科部長
米村 雄士	熊本大学附属病院 輸血部講師
紀野 修一	旭川医科大学附属病院 輸血部講師
梶原 道子	東京医科歯科大学附属病院 輸血部副部長
鈴木 典子	財団法人血液製剤調査機構 調査課長

A. 研究目的

本研究は、血液製剤の安定供給を図る目安になる将来の血液製剤需要を予測するものである。また併せて血液製剤の適正使用をめぐる諸因子についても調査し、適正使用に寄与する要因を明らかにすることも目指したものである。

B. 研究方法

1. 血液製剤使用量の推移

過去 10 年間の血液製剤供給量の推移等を日

本赤十字社の資料等から調べる他、大規模病院 5 病院の診療科別使用量の推移を調査した。

2. デルファイ法アンケート調査

(分担研究者 河原和夫)

デルファイ法により、全国の大学病院輸血部および赤十字血液センターの輸血医療・血液事業従事者に対するアンケート調査を実施した。これら調査対象は総数 152 か所(大学病院輸血部 83 か所、日赤血液センター69 か所)で、そ